

組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：キャリア開発センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 1)キャリア教育科目の体系化について、学生の受講時期などを踏まえたさらなる精査を行う。 2)新設授業科目を含めたキャリア教育科目の充実を図る。 3)正課外活動を活性化させるための支援のあり方を検討する。	1)今年度は、学生の自己評価及び小レポートのテキストマイニングに加え、ポートフォリオによる教育効果の検証も開始した。さらに次年度に向けて、基礎講座、応用講座、総合演習の3領域を明確化し、当該授業科目を位置づけることで体系化を精査した。 2)新設授業科目を3科目(5コマ)増やしたことで、従来以上のバリエーションが獲得され、学生の多様なニーズに対応する授業科目群となった。また、既設授業科目の内容及び実施体制も改善しながら、キャリア教育関連授業科目の体系化も行った。その結果、学生が自身のニーズにマッチした授業科目を選択しやすくなった。 3)正課外活動については、校友会に参加する学生を対象に、セミナーに関する希望調査を実施した。併せて、前年度末に実施した校友会の実態調査に関して、その成果を大学教育研究紀要第7号にまとめた。また、リーダーズ合宿研修及び2回のリーダーズセミナーを実施し、サークル代表者の意識向上とともに、5年間の「岡スポ」総集編を作成し、学生のモチベーション向上を図った。 正課外活動支援のためのソフト及びハード面については、正課外活動活性化支援部会を設置し、文系・体育系サークル顧問代表及び学務部と協働の上、他大学も含めた校友会サークルの現状把握(岡山大学キャリア開発センター年報 第2号)及び改善の検討を行った。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 1)新設授業科目を中心に教育効果を調査・分析する。 2)正課外活動支援に取り組む他大学の実態を調査・分析する。	1)本年度より導入したポートフォリオによって、当該授業科目に関する教育効果の分析を実施した。併せて、教材として用いたワークシートからテキストマイニング分析を行ったり、学生のプレゼンテーションによる客観的評価を行ったりと各授業科目に応じて適切な方法による調査・分析を行った。なお、前年度の教育効果に関しては、一部文章化し、大学教育研究紀要第7号に掲載し公表した。 2)筑波大学、広島大学、島根大学、愛媛大学に関する実態調査・分析を行った。その結果、各大学の取り組み方や体制づくりなどに関する独自性を抽出し、岡山大学キャリア開発センター年報 第2号にまとめた。なお、抽出してまとめた内容については、教職員とは正課外活動支援部会で共有し、校友会サークルのリーダーたちともリーダー研修会等で共有することができた。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③センター業務領域	自己評価
③-1 目標 1)学生同士による自主的な就職支援活動を援助することで、その内容及び体制を充実させる。 2)卒業生フォローアップセミナーを継続させる中で、その内容及び体制を充実させる。 3)岡大キャリアナビの改修及びホームページの開設を通じて就職支援の強化を行う。 4)本センターと各学部及び研究科とが、学生・院生(留学生も含む)の就職状況を共有することの有益性を確認し、初期システムを構築する。	1)本センターが主管する学生企画チームへの日常的な支援を行い、前年度よりも自主セミナーの実施回数を約2倍にまで増加させるなど、活性化することができた。また、就活リーダーズ合宿では、前年度までと比べて参加規模を拡大した。その結果56名の参加が得られ、以降の人間関係の構築にもつながった。 2)同窓生のスキルアップ支援及び交流の場として県外主要都市での複数小規模開催と県内単数大規模開催を行った。その結果、東京(計4回/平均12名)、大阪(計2回/平均17名)、岡山(計1回/52名)で卒業生フォローアップセミナーを実施した。その中で、役割分担や協力体制を明確にし、継続的に開催する仕組みづくりを行った。また、H22年に沖縄県若手卒業生有志より要望があり開催したフォローアップセミナーは、放送文化部と沖縄県の放送局(FM21)をつなぎ、1年間をかけて定期的に本学の紹介番組を実現させることにより、定期的な情報発信の一つの方法として試みた。 3)本センターのホームページを新設した。また、岡大キャリアナビについては、IDとパスワードの入力方法を改善したり、新パッケージへ移行したりと学生にさらに充実した機能を提供できるように試みた。 4)昨年度実施した各学部長との意見交換を基に現場レベルで正確な状況把握を行うための具体的協力支援体制の再構築を開始した。また、学部・研究科における正確な就職状況を把握するために、実態のヒアリング調査及び個別面談も実施した。その上で、各学部へのガイダンスや公務員講座等の拡大開催の実施、及び就職情報の把握体制の強化を実現した他大学の情報収集から進路調査シートの全学統一に向けたフォーマット作成と文系学生の進路情報把握のための体制構築について原案を立案した。一方、医歯薬学総合研究科と文学部においては、教員が就職活動への理解を深めるためのガイダンスを実施した。 さらに、留学生の就職支援については、個別のアドバイジングを実施するとともに、海外に事業拠点を持っている岡山県内の主要企業(21社)への訪問調査を実施した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
④-1 目標 1)地域連携インターンシップを通じて、地域との連携を推進する。 2)正課外活動に参画している学生たちの地域貢献活動を支援する。	1)地場企業の内山工業から協力を得られ、本年度も継続して海外インターンシップを行った。また、同じく山方永寿堂や岡大生協からの協力を得て、「岡大きびだんご」を学生主体で企画し商品化まで到達することができた。さらに授業でも、内容に応じて積極的に地場企業と連携することで、学生に社会体験を提供した。 2)体育会サークル(有志)による町内会清掃活動や文化会サークル(有志)による自転車無灯火ゼロ運動などを実施した。その他にも、音楽系サークルによる「岡山大学ミュージックフェスティバル」の実現に向けて、定期的な実行委員会を開催している。体育系サークルとも協力し、隔週で週末学童運動教室を継続開催した。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
【総括記述欄】	
各領域において、具体的な取組を可視化できた点は大きな成果といえる。また、萌芽的な取組については事前調査を、新規取組については内容の検討を、継続的な取組についてはさらなる充実を図ることで、全体としてのPDCAサイクルを作り出している。なお、これらの成果の背景には、教職員の連携に加え協働した学生の力が大きかったといえる。 しかしながら、学生との協働に関しては、参画する学生の確保や質的な維持・向上が課題となる。この点については、次年度に向けて取組むべき課題として挙げられる。	